

葛城中学校だより

令和4年3月8日(火)
岸和田市立葛城中学校
岸和田市土生町 213-1
電話 427-5907
FAX 428-4494

今年の卒業証書授与式は3月11日です。卒業証書授与式と3月11日が重なると、2011年の東日本大震災を思い出さずにはいられなくなりました。卒業証書授与式が終わり、3年生を見送った後、ゆっくりくつろいでいたときに、その瞬間はやってきたのです。岸和田はほとんど揺れは感じなかったと思います。何が起こったのか映画の中の出来事かと思うような光景が次々とテレビのニュースから映し出されてきました。

▼防災について考えました▼

今から99年前、1923年(大正12年)9月1日。190万人が被災、10万5千人余が死亡あるいは行方不明になったという甚大な被害をもたらした関東大震災がおきました。その教訓を忘れず、教訓を生かし防災に対する意識を高めることと、二百十日(立春の日から数えて二百十日目、だいたい9月1日ごろ)とって昔からこの時期が台風シーズンと重なるため、自然災害への備えをするために1960年に【9月1日】が防災の日と制定されました。

私も、祖母から関東大震災の様子は子どもの頃によく聞かされていましたが、50年も昔のことなので「ふ〜ん」という感じで聞いていました。



(関東大震災での被災の様子)

しかし、1995年1月17日5時46分に発生した阪神淡路大震災。突然の揺れで飛び起きたことを思い出しました。そのころ勤めていた学校

へは電車で通っていましたが、電車は動かず、車に乗って遅れて勤務校にたどり着いたことを思い出します。その当時の古い校舎には亀裂が走り安全に使えるのか不安になりました。その後テレビのニュースからは高速道路が倒壊したり、ビルが折れたたむように崩れていたり。そして街が燃えている映像が映画のように映し出されていました。

地震の被害を目の当たりにし、祖母が語ってくれた地震の恐ろしさが実感としてよみがえってきました。さらに、2011年3月11日14時46分に発生した東日本大震災では、地震に加えて津波の恐ろしさも目の当たりにしました。自然の力の大きさの前では人間はいかに小さな存在だということを実感しました。防災についての認識も変わりました。今までの地震を想定した避難訓練では、校舎から避難してグラウンドに集合すれば完了していましたが、海から近いところでは津波を想定して、高い所(校舎の3階、屋上)へ、さらなる避難場所を求め逃げる訓練も必要になってきました。ここ、岸和田市は過去大きな地震もなく、温暖で、とても暮らしやすい地域です。しかし、最近は大きな台風が来て、葛城中学校も大きな被害を受けたこともありました。災害はいつ起こるかもしれません。私たちも常日頃から、自然災害に気をつけ、防災グッズを備えるとか、家族とどのように連絡を取り合うか、どこに避難するかなど話し合うこともとても大切なことだと思います。



3月11日14時46分には、それぞれの場所で、亡くなられた多くの方々のご冥福を^{いの}祈ってください。

◎オミクロン株の威力は未だに衰えません

ダイヤモンドプリンセス号が、2年前の2月に新型コロナウイルス感染者を乗せて横浜港に接岸した時にはこのような大きな災害になるとは思いもよらず、対岸の火事のようにテレビを見ていました。今の3年生が1年生の学年末テストが終了したと同時に3月に学校が休校となり、再開できたのは6月からでした。令和3年度は2度の学校閉鎖を経験したので、1年間、何事もなく過ごせたことは、3年生は3年間一度もなく、2年間で5波に渡る大きい感染の波が押し寄せ、昨年何度も緊急事態宣言が発出されました。学校生活も大きく影響を受けました。修学旅行も2年間、時期と場所の変更を余儀なくされました。でも、3年生は、前向きにいつも明るく学校生活を楽しんでくれたことが救いでした。ウイズコロナ時代だと言われますが、人間も負けてはいません。卒業後、次のステージで思う存分楽しんでください。